

別紙侵害部分対照表

原告作成テキスト	発行年月日	頁・箇所	被告作成テキスト	発行年月日	頁・箇所	備考
平成25年度1級建築士設計製図受験テキスト(甲1)	H25.8.2	76 頁左段図面	建築士講座2013年目標1級建築士新体系テキスト設計製図(甲8)	H26.8.6	106 頁左段図面	左記に摘示した箇所に記載されている図面の特徴点が類似している。
		1				

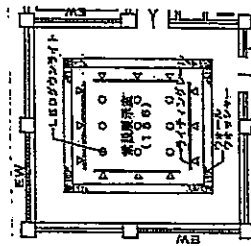
平成 23 年度 1 級建築 士設計製図受験デキ スト (甲 2)	H23.8.1	①82 頁右上「構造 要素及び照明器具 の凡例」下記号中 「全般照明 (LED ダウンライト)」、 「ウォールウォッ シャー」、 「スポッ トライト」の各記号 ②82 頁「2 階平面 図」中の「常設展示 室」図面部分	同上	同上	①119 頁右上「構 造要素及び署名 器具の凡例」下記 号中「全般照明 (LEDダウン ライト)」、 「ウ ォールウォッシ ャー」、 「スポッ トライト」の各記 号 ②119 頁上部図面 中「常設展示室」 図面部分	① 構造要素及び照明器具を図 説する際の記号については決ま ったものがあるのではなく各社 独自の記号を用いて表現してい るところ、各図面右上に図説さ れている構造要素及び照明器具 の凡例上、壁ないしライトを表 す記号に同一の記号が用いられ ている。 ② 演習問題における図面上、 照明の個数等器具の配置場 所・数については各社独自の 図面を用いるのが通常である ところ、各図面 2 階平面図に 図説されている常設展示室の ライトの配置が同一である。
---	---------	--	----	----	---	---

構造要素及び照明器具の凡例

名称	記号	名称	記号
耐力壁	BW		
全縁照明 (LED92211)	○	スポットライト	▽
ウォール ウォッシュ ライト	WS		

①

②

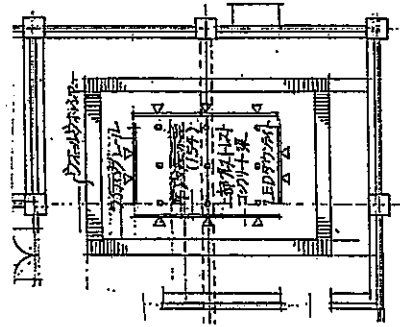


構造要素及び照明器具の凡例

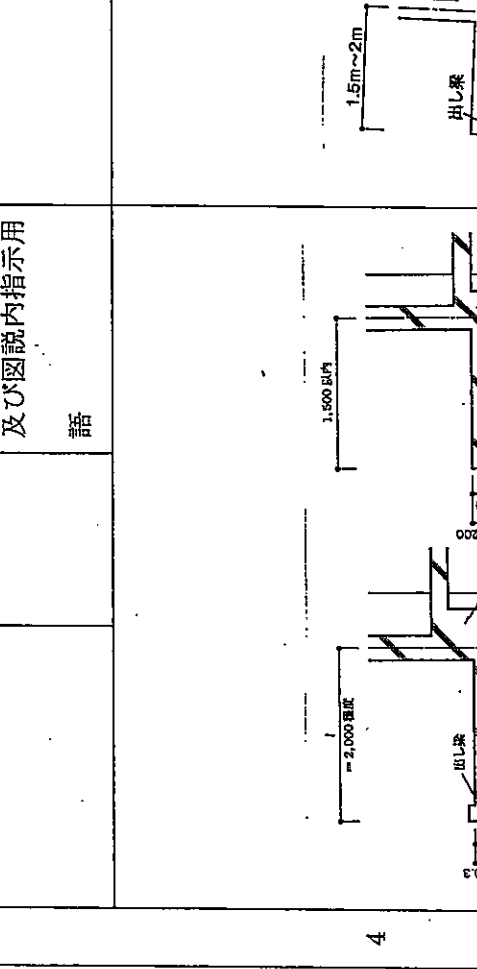
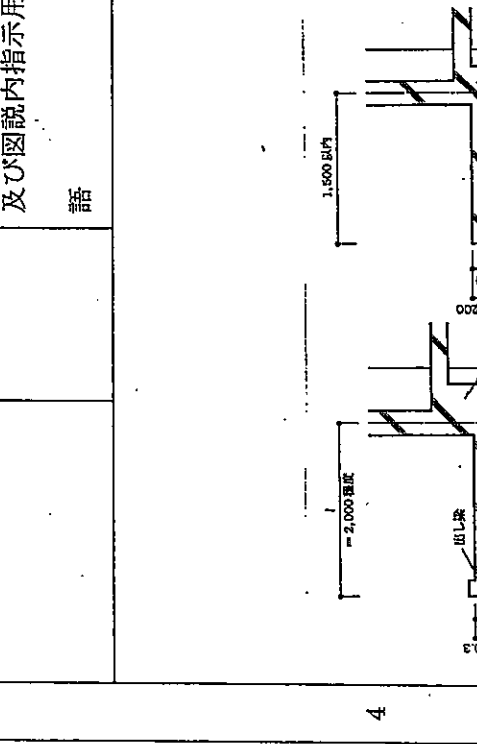
名称	記号	名称	記号
全縁照明 (LED92211)	○		
ウォール ウォッシュ ライト	WS		
スポットライト	▽		

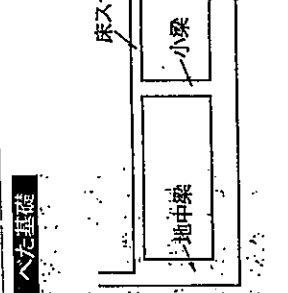
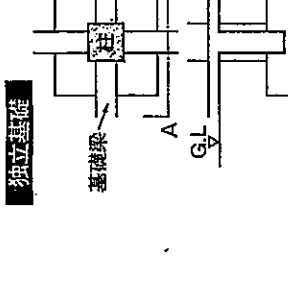
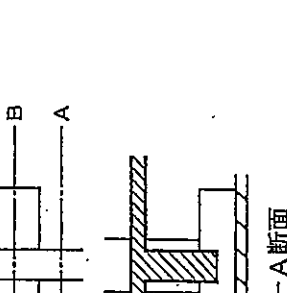
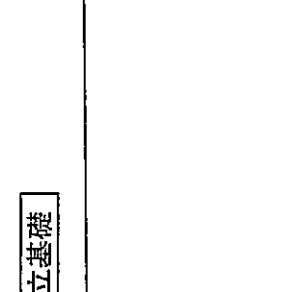
①

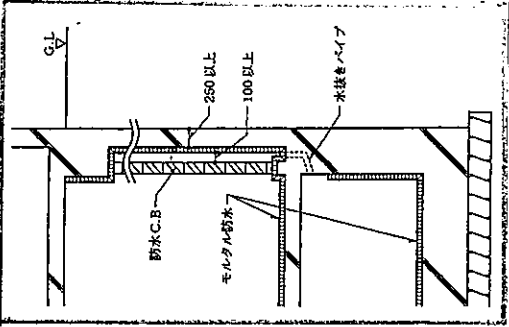
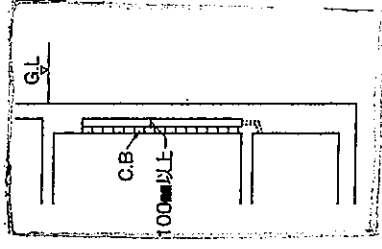
②



平成 23 年度 1 級建築 士設計製図基礎テキ スト (甲 3)	H23.2.4	87 頁 1 行目	同上	同上	27 頁(4)(c)の 1 行 目	<p>床スラブ短辺スパンが何メートルを超えた場合に小梁をかける必要があるかについては明確な定めがあるわけではなく、各プロジェクト作成会社によって基準は異なるところ、被告は原告作成基準を用いている (原告テキストでは「4m を超える場合」と記載されているところ、被告テキストでは「4m を超えないように」と記載されている)。</p>
<p>床版の短辺が 4 m を超えないようにするために</p> <p>床スラブ短辺スパンが 4 m 程度を越える場合に必要である。</p>						

同上	同上	88 頁「キャンティ レバー」内の両図説 及び図説内指示用 語	同上	同上	原告デキスト上「キャンティ レバー」(片持ち梁と同旨)を 設置する必要がある場合を示す 図説に関し、被告デキストにお いて全く同様の図及び用語指示 が為されている。
同上	同上	29 頁「(6)庇・パ ルコニー」内の両 図説及び図説内 指示用語	同上		

<p>同上</p>	<p>同上</p>	<p>93 頁「ベタ基礎」, 「独立基礎 A-A 図断面」</p>	<p>同上</p>	<p>29 頁「べた基礎」, 「独立基礎」各図 説</p>	<p>被告テキストの左記「独立基礎」及び「ベタ基礎」の各図において、同じく左記に示した原告発行テキスト上の図と同一の図面・指示用語が使用されている。</p>
<p>同上</p>	<p>同上</p>				

6	同上	同上	97頁「7. 地下室」 内解説・図説(右側 部分)	同上	同上	28頁「(e)壁」内 解説・図説	地階の壁構造につき、内側に 設置するコンクリートブロック (C.B.と記されている)との間 に100mm以上の空間を空け て、250mm以上の壁厚との説 明内容・図解が原告デキストと 同一である。
地下室の構造は、外壁を柱の外側に揃え、湧水や結露対策 のために、内部に10cm程度の空間を設け、内側に防水 コンクリートを積んだ二重壁構造とする。				地階・・・25cm(縮尺1/200)では、1.3mm程度 地階の外周壁は、湧水対策として梁・外周壁の外面を 柱外面にそろえ、浸透水の対策として内側に10cm 程度のクリアランスを介し、コンクリートブロックを 積んで二重壁とする。			

同上	同上	113 頁上部図解「給水方式の比較」	同上	同上	38 頁「(c)給水方式の特徴」図解	<p>原告「給水方式の比較」図解の内、「水道直結直圧方式」及び「ポンプ直送方式」の特徴点(給水圧力の変化、水質汚染の可能性、断水時(の給水)、停電時(の給水)、機械室スペース、維持管理(の要否)の各項目についての説明内容)が被告テキストにおいてそのまま用いられている。</p>																																									
<table border="1"> <tr><td>給水方式</td><td>水道直結直圧方式</td><td>ポンプ直送方式</td></tr> <tr><td>給水圧力の変化</td><td>水道本管の圧力に応じて変化する</td><td>ほぼ一定</td></tr> <tr><td>水質汚染の可能性</td><td>小さい</td><td>大きい</td></tr> <tr><td>断水時</td><td>給水は不可能</td><td>受水槽の容量だけ給水可能</td></tr> <tr><td>停電時(発電機なし)</td><td>給水可能</td><td>給水は不可能</td></tr> <tr><td>機械室スペース</td><td>不要</td><td>受水槽、直送ポンプのスペースが必要</td></tr> <tr><td>維持管理</td><td>ほとんど不要</td><td>受水槽の清掃、直送ポンプの維持管理が必要</td></tr> </table>	給水方式	水道直結直圧方式	ポンプ直送方式	給水圧力の変化	水道本管の圧力に応じて変化する	ほぼ一定	水質汚染の可能性	小さい	大きい	断水時	給水は不可能	受水槽の容量だけ給水可能	停電時(発電機なし)	給水可能	給水は不可能	機械室スペース	不要	受水槽、直送ポンプのスペースが必要	維持管理	ほとんど不要	受水槽の清掃、直送ポンプの維持管理が必要	<table border="1"> <tr><td>給水方式</td><td>水道直結直圧方式</td><td>受水槽方式</td></tr> <tr><td>水質汚染の可能性</td><td>小さい</td><td>大きい</td></tr> <tr><td>給水圧力の変化</td><td>配水管の圧力で変化</td><td>ほとんど一定</td></tr> <tr><td>断水時の給水</td><td>不可能</td><td>受水槽内に貯る水量が可能</td></tr> <tr><td>停電時の給水</td><td>可能</td><td>給電線の位置で可能</td></tr> <tr><td>配電設備</td><td>不要</td><td>受水槽・直送ポンプのスペースが必要</td></tr> <tr><td>維持管理</td><td>ほとんど不要</td><td>受水槽の清掃、直送ポンプの点検が必要</td></tr> </table>	給水方式	水道直結直圧方式	受水槽方式	水質汚染の可能性	小さい	大きい	給水圧力の変化	配水管の圧力で変化	ほとんど一定	断水時の給水	不可能	受水槽内に貯る水量が可能	停電時の給水	可能	給電線の位置で可能	配電設備	不要	受水槽・直送ポンプのスペースが必要	維持管理	ほとんど不要	受水槽の清掃、直送ポンプの点検が必要	同上	同上	同上	<p>原告「給水方式の比較」図解内、「水道直結直圧方式」及び「ポンプ直送方式」の特徴点(給水圧力の変化、水質汚染の可能性、断水時(の給水)、停電時(の給水)、機械室スペース、維持管理(の要否)の各項目についての説明内容)が被告テキストにおいてそのまま用いられている。</p>
給水方式	水道直結直圧方式	ポンプ直送方式																																													
給水圧力の変化	水道本管の圧力に応じて変化する	ほぼ一定																																													
水質汚染の可能性	小さい	大きい																																													
断水時	給水は不可能	受水槽の容量だけ給水可能																																													
停電時(発電機なし)	給水可能	給水は不可能																																													
機械室スペース	不要	受水槽、直送ポンプのスペースが必要																																													
維持管理	ほとんど不要	受水槽の清掃、直送ポンプの維持管理が必要																																													
給水方式	水道直結直圧方式	受水槽方式																																													
水質汚染の可能性	小さい	大きい																																													
給水圧力の変化	配水管の圧力で変化	ほとんど一定																																													
断水時の給水	不可能	受水槽内に貯る水量が可能																																													
停電時の給水	可能	給電線の位置で可能																																													
配電設備	不要	受水槽・直送ポンプのスペースが必要																																													
維持管理	ほとんど不要	受水槽の清掃、直送ポンプの点検が必要																																													



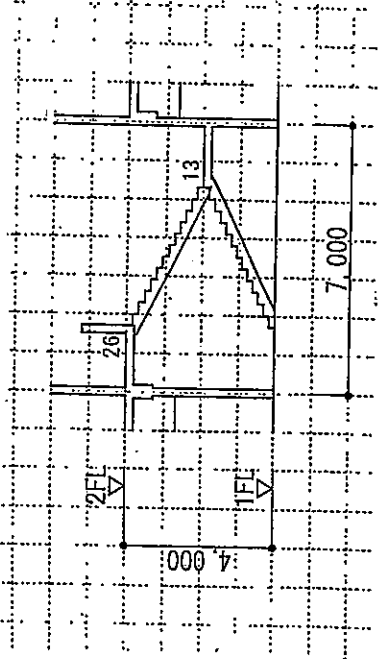
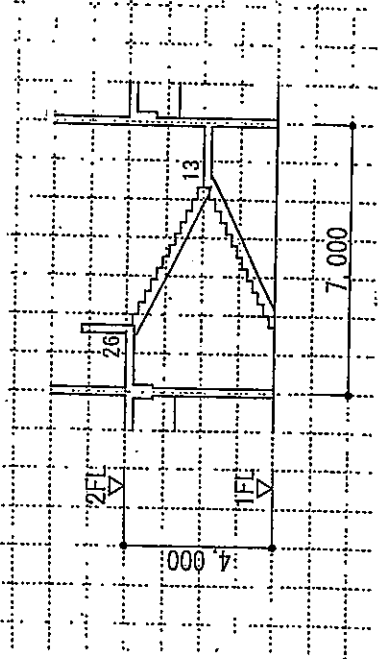
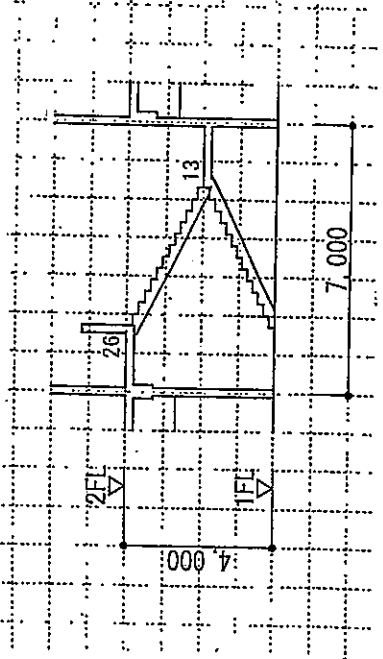
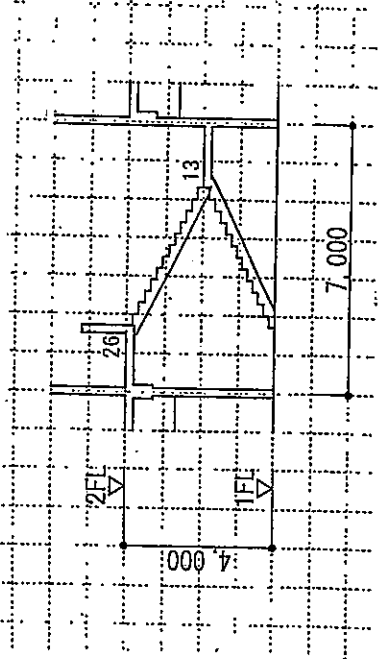
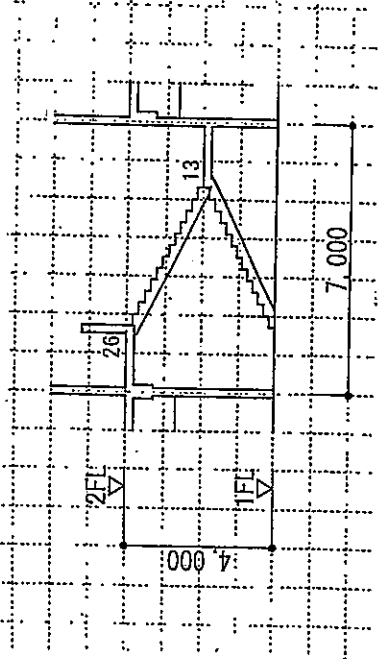
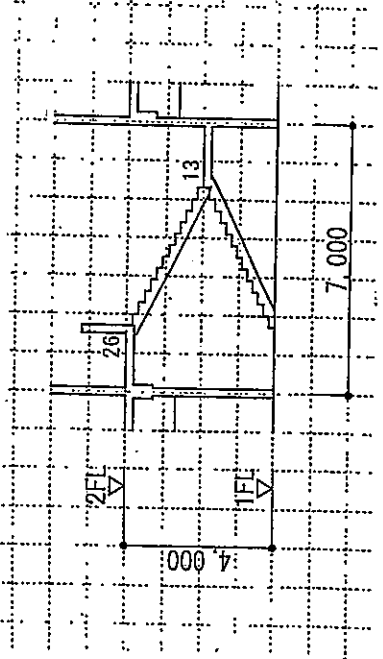
<p>左記に特定した原告図解の内、「11人/750kg」、「13人/900kg」、「15人/1000kg」、「11人(寝台用)」の「積載量」、「かご内法寸法」、「出入口幅」及び「昇降路内法寸法」内の数字が、左記特定の被告図解中「乗用11人」、「乗用13人」、「乗用15人」、「寝台用11人」の図解の中でそのまま利用されている。</p>																																					
<p>41頁「②エレベーター」内図解</p>	<table border="1"> <tr> <td>乗用11人</td> <td>750</td> <td>80</td> <td>110</td> <td>130×230</td> <td>205×290</td> </tr> <tr> <td>乗用13人</td> <td>850</td> <td>80</td> <td>105×200</td> <td>165×235</td> <td></td> </tr> <tr> <td>乗用15人</td> <td>1000</td> <td>90</td> <td>160×150</td> <td>215×230</td> <td></td> </tr> <tr> <td>乗用13人</td> <td>900</td> <td>90</td> <td>160×135</td> <td>215×215</td> <td></td> </tr> <tr> <td>乗用11人</td> <td>750</td> <td>80</td> <td>140×135</td> <td>185×205</td> <td></td> </tr> <tr> <td>積載量(kg)</td> <td></td> <td></td> <td>出入口幅(㎜)</td> <td>かご内法寸法(幅×奥行(㎜))</td> <td>昇降路内法寸法(幅×奥行(㎜))</td> </tr> </table>	乗用11人	750	80	110	130×230	205×290	乗用13人	850	80	105×200	165×235		乗用15人	1000	90	160×150	215×230		乗用13人	900	90	160×135	215×215		乗用11人	750	80	140×135	185×205		積載量(kg)			出入口幅(㎜)	かご内法寸法(幅×奥行(㎜))	昇降路内法寸法(幅×奥行(㎜))
乗用11人	750	80	110	130×230	205×290																																
乗用13人	850	80	105×200	165×235																																	
乗用15人	1000	90	160×150	215×230																																	
乗用13人	900	90	160×135	215×215																																	
乗用11人	750	80	140×135	185×205																																	
積載量(kg)			出入口幅(㎜)	かご内法寸法(幅×奥行(㎜))	昇降路内法寸法(幅×奥行(㎜))																																
<p>同上</p>	<table border="1"> <tr> <td>乗用11人</td> <td>750</td> <td>80</td> <td>140×135</td> <td>185×205</td> <td></td> </tr> <tr> <td>乗用13人</td> <td>900</td> <td>90</td> <td>160×135</td> <td>215×215</td> <td></td> </tr> <tr> <td>乗用15人</td> <td>1000</td> <td>90</td> <td>160×150</td> <td>215×230</td> <td></td> </tr> <tr> <td>乗用13人</td> <td>850</td> <td>80</td> <td>105×200</td> <td>165×235</td> <td></td> </tr> <tr> <td>寝台用11人</td> <td>750</td> <td>110</td> <td>130×230</td> <td>205×290</td> <td></td> </tr> <tr> <td>積載量(kg)</td> <td></td> <td></td> <td>出入口幅(㎜)</td> <td>かご内法寸法(幅×奥行(㎜))</td> <td>昇降路内法寸法(幅×奥行(㎜))</td> </tr> </table>	乗用11人	750	80	140×135	185×205		乗用13人	900	90	160×135	215×215		乗用15人	1000	90	160×150	215×230		乗用13人	850	80	105×200	165×235		寝台用11人	750	110	130×230	205×290		積載量(kg)			出入口幅(㎜)	かご内法寸法(幅×奥行(㎜))	昇降路内法寸法(幅×奥行(㎜))
乗用11人	750	80	140×135	185×205																																	
乗用13人	900	90	160×135	215×215																																	
乗用15人	1000	90	160×150	215×230																																	
乗用13人	850	80	105×200	165×235																																	
寝台用11人	750	110	130×230	205×290																																	
積載量(kg)			出入口幅(㎜)	かご内法寸法(幅×奥行(㎜))	昇降路内法寸法(幅×奥行(㎜))																																
<p>120頁図解「エレベーターの寸法」</p>	<table border="1"> <tr> <td>11人(寝台用)</td> <td>1,300×2,300</td> <td>1,100</td> <td>2,050×2,900</td> <td></td> </tr> <tr> <td>15人/1,000kg</td> <td>1,600×1,500</td> <td>900</td> <td>2,150×2,300</td> <td></td> </tr> <tr> <td>13人/900kg</td> <td>1,600×1,350</td> <td>900</td> <td>2,150×2,150</td> <td></td> </tr> <tr> <td>11人/750kg</td> <td>1,400×1,350</td> <td>800</td> <td>1,800×2,000</td> <td></td> </tr> <tr> <td>定員/積載荷重</td> <td></td> <td></td> <td>出入口幅(幅×奥行(㎜))</td> <td>昇降路内法寸法(幅×奥行(㎜))</td> </tr> <tr> <td>かご内法寸法(幅×奥行(㎜))</td> <td></td> <td></td> <td>出入口幅</td> <td></td> </tr> </table>	11人(寝台用)	1,300×2,300	1,100	2,050×2,900		15人/1,000kg	1,600×1,500	900	2,150×2,300		13人/900kg	1,600×1,350	900	2,150×2,150		11人/750kg	1,400×1,350	800	1,800×2,000		定員/積載荷重			出入口幅(幅×奥行(㎜))	昇降路内法寸法(幅×奥行(㎜))	かご内法寸法(幅×奥行(㎜))			出入口幅							
11人(寝台用)	1,300×2,300	1,100	2,050×2,900																																		
15人/1,000kg	1,600×1,500	900	2,150×2,300																																		
13人/900kg	1,600×1,350	900	2,150×2,150																																		
11人/750kg	1,400×1,350	800	1,800×2,000																																		
定員/積載荷重			出入口幅(幅×奥行(㎜))	昇降路内法寸法(幅×奥行(㎜))																																	
かご内法寸法(幅×奥行(㎜))			出入口幅																																		
<p>同上</p>	<table border="1"> <tr> <td>11人(寝台用)</td> <td>1,300×2,300</td> <td>1,100</td> <td>2,050×2,900</td> <td></td> </tr> <tr> <td>15人/1,000kg</td> <td>1,600×1,500</td> <td>900</td> <td>2,150×2,300</td> <td></td> </tr> <tr> <td>13人/900kg</td> <td>1,600×1,350</td> <td>900</td> <td>2,150×2,150</td> <td></td> </tr> <tr> <td>11人/750kg</td> <td>1,400×1,350</td> <td>800</td> <td>1,800×2,000</td> <td></td> </tr> <tr> <td>定員/積載荷重</td> <td></td> <td></td> <td>出入口幅(幅×奥行(㎜))</td> <td>昇降路内法寸法(幅×奥行(㎜))</td> </tr> <tr> <td>かご内法寸法(幅×奥行(㎜))</td> <td></td> <td></td> <td>出入口幅</td> <td></td> </tr> </table>	11人(寝台用)	1,300×2,300	1,100	2,050×2,900		15人/1,000kg	1,600×1,500	900	2,150×2,300		13人/900kg	1,600×1,350	900	2,150×2,150		11人/750kg	1,400×1,350	800	1,800×2,000		定員/積載荷重			出入口幅(幅×奥行(㎜))	昇降路内法寸法(幅×奥行(㎜))	かご内法寸法(幅×奥行(㎜))			出入口幅							
11人(寝台用)	1,300×2,300	1,100	2,050×2,900																																		
15人/1,000kg	1,600×1,500	900	2,150×2,300																																		
13人/900kg	1,600×1,350	900	2,150×2,150																																		
11人/750kg	1,400×1,350	800	1,800×2,000																																		
定員/積載荷重			出入口幅(幅×奥行(㎜))	昇降路内法寸法(幅×奥行(㎜))																																	
かご内法寸法(幅×奥行(㎜))			出入口幅																																		
<p>同上</p>	<table border="1"> <tr> <td>11人(寝台用)</td> <td>1,300×2,300</td> <td>1,100</td> <td>2,050×2,900</td> <td></td> </tr> <tr> <td>15人/1,000kg</td> <td>1,600×1,500</td> <td>900</td> <td>2,150×2,300</td> <td></td> </tr> <tr> <td>13人/900kg</td> <td>1,600×1,350</td> <td>900</td> <td>2,150×2,150</td> <td></td> </tr> <tr> <td>11人/750kg</td> <td>1,400×1,350</td> <td>800</td> <td>1,800×2,000</td> <td></td> </tr> <tr> <td>定員/積載荷重</td> <td></td> <td></td> <td>出入口幅(幅×奥行(㎜))</td> <td>昇降路内法寸法(幅×奥行(㎜))</td> </tr> <tr> <td>かご内法寸法(幅×奥行(㎜))</td> <td></td> <td></td> <td>出入口幅</td> <td></td> </tr> </table>	11人(寝台用)	1,300×2,300	1,100	2,050×2,900		15人/1,000kg	1,600×1,500	900	2,150×2,300		13人/900kg	1,600×1,350	900	2,150×2,150		11人/750kg	1,400×1,350	800	1,800×2,000		定員/積載荷重			出入口幅(幅×奥行(㎜))	昇降路内法寸法(幅×奥行(㎜))	かご内法寸法(幅×奥行(㎜))			出入口幅							
11人(寝台用)	1,300×2,300	1,100	2,050×2,900																																		
15人/1,000kg	1,600×1,500	900	2,150×2,300																																		
13人/900kg	1,600×1,350	900	2,150×2,150																																		
11人/750kg	1,400×1,350	800	1,800×2,000																																		
定員/積載荷重			出入口幅(幅×奥行(㎜))	昇降路内法寸法(幅×奥行(㎜))																																	
かご内法寸法(幅×奥行(㎜))			出入口幅																																		
<p>同上</p>	<table border="1"> <tr> <td>11人(寝台用)</td> <td>1,300×2,300</td> <td>1,100</td> <td>2,050×2,900</td> <td></td> </tr> <tr> <td>15人/1,000kg</td> <td>1,600×1,500</td> <td>900</td> <td>2,150×2,300</td> <td></td> </tr> <tr> <td>13人/900kg</td> <td>1,600×1,350</td> <td>900</td> <td>2,150×2,150</td> <td></td> </tr> <tr> <td>11人/750kg</td> <td>1,400×1,350</td> <td>800</td> <td>1,800×2,000</td> <td></td> </tr> <tr> <td>定員/積載荷重</td> <td></td> <td></td> <td>出入口幅(幅×奥行(㎜))</td> <td>昇降路内法寸法(幅×奥行(㎜))</td> </tr> <tr> <td>かご内法寸法(幅×奥行(㎜))</td> <td></td> <td></td> <td>出入口幅</td> <td></td> </tr> </table>	11人(寝台用)	1,300×2,300	1,100	2,050×2,900		15人/1,000kg	1,600×1,500	900	2,150×2,300		13人/900kg	1,600×1,350	900	2,150×2,150		11人/750kg	1,400×1,350	800	1,800×2,000		定員/積載荷重			出入口幅(幅×奥行(㎜))	昇降路内法寸法(幅×奥行(㎜))	かご内法寸法(幅×奥行(㎜))			出入口幅							
11人(寝台用)	1,300×2,300	1,100	2,050×2,900																																		
15人/1,000kg	1,600×1,500	900	2,150×2,300																																		
13人/900kg	1,600×1,350	900	2,150×2,150																																		
11人/750kg	1,400×1,350	800	1,800×2,000																																		
定員/積載荷重			出入口幅(幅×奥行(㎜))	昇降路内法寸法(幅×奥行(㎜))																																	
かご内法寸法(幅×奥行(㎜))			出入口幅																																		

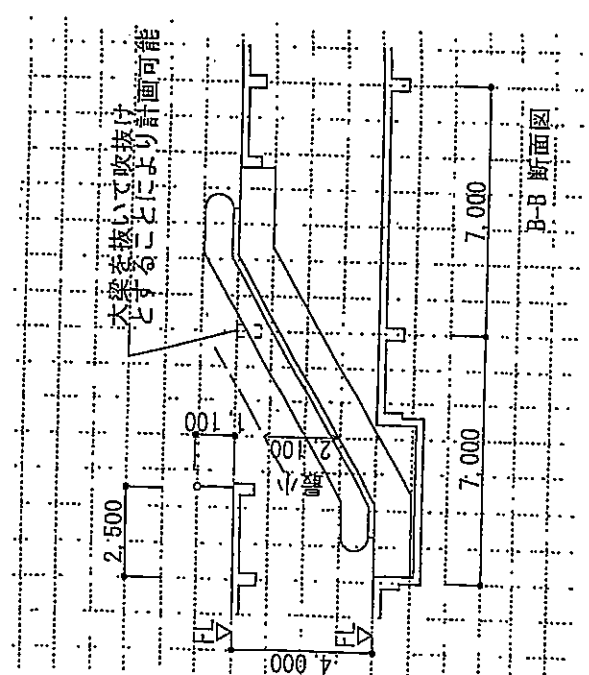
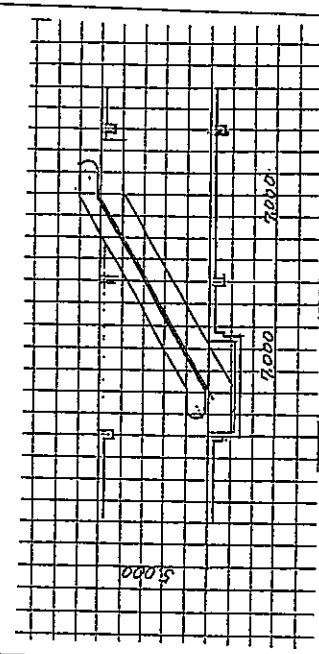
同上	同上	①126頁「1 建築的手法」中 1)屋上緑化, 2)植栽, 3)建物の方位, 4)庇・ルーバー, 5)窓ガラスの各項目中の説明部分	同上	45頁の「6 環境負担低減への対策」中①「建築的手法」各説明部分の「② 設備的手法」の内(a)ヒートポンプ方式, (b)熱交換機の各項目説明部分	① 原告「1 建築的手法」の解説中, 「1 屋上緑化」, 「2 植栽」, 「3 建物の方位」, 「4 庇・ルーバー」, 「5 窓ガラス」, 項目に記載されている事項が被告作成テキストにおいて用いられている。 ② 原告「2 設備的手法」の解説中, 「1 ヒートポンプの採用」, 「全熱交換機の採用」項目に記載されている事項が被告作成テキストにおいても用いられている。
① 1 建築的手法	① ①建築的手法	① ①建築的手法 ①建築的手法	① ①建築的手法	同上	① ①建築的手法 建築てきな工夫によって熱負荷の軽減を図り, 自然

<p>向上等による熱負荷の低減を行う手法をいう。</p> <p>1) 屋上緑化 日射熱が最上階の天井から流入するのを防止し、また、水分の蒸発による冷却効果により地球温暖化防止に貢献するため、陸屋根部分には屋上緑化を採用する手法。</p> <p>2) 植栽 敷地南側や西側に落葉高木を植栽し、夏の日射遮蔽、冬季の日射取得を踏む方法。</p> <p>3) 建物の方位 夏の日射量は、南面が少なく、東西面が多いため、建築物の東西軸を長くし、防暑を図る手法。</p> <p>4) 庇・ルーバ― 夏の日射を遮蔽するため、太陽高度の高い南面には庇状の水平型ルーバ―を設け、太陽高度の低い西面には縦型ルーバ―を設ける手法。</p> <p>5) 窓ガラス</p>	<p>採光や通風を活用する手法をいう。</p> <p>(1) 屋上緑化・植栽 夏の日射による熱負荷を低減するため、屋上の緑化し、敷地内には積極的に植栽を施す。夏期には日射を遮蔽し、冬期には建物に日射できるよ様に落葉高木などを敷地の南側や西側に植えることも有効である。</p> <p>(2) ルーバ―・庇 夏の日射遮蔽を行うため、南側開口部には水平ルーバ―や庇を設け、東・西側開口部には垂直ルーバ―を設置する。</p> <p>(3) 窓ガラス 日射遮蔽効果や断熱効果の高いLow-Eガラスを採用する。</p> <p>(4) 開口部の方位 地域の卓越風向を考慮し、効果的な通風を得ることので、夏のエネルギーを軽減する。</p>
---	---

	<p>窓ガラスを日射遮蔽効果及び断熱効果の高いLow-Eガラス（低放射率ガラス）を用いた複層ガラス等とする手法。</p> <p>②</p> <p>2 設備的手法</p> <p>エネルギー利用効率の高い設備システムを採用することにより、環境負荷の低減を行う手法をいう。特に、空調設備は建築物の全エネルギー消費量のうち約50%をしめるため、その削減は省エネルギー、環境負荷低減に大きな効果がある。</p> <p>1)ヒートポンプの採用</p> <p>ヒートポンプ（電気）では、電気は熱エネルギーとしてではなく、室内と室外との間で空気の熱エネルギーを移動させるためだけに利用される。そのため、消費電力の3～5倍近くの熱を利用できると言われており、石油などの化</p>	<p>②</p> <p>②機械的手法</p> <p>性能の高い設備システムを構築し、適正に運転管理する手法をいう。以下に設備種別ごとの主な対策を挙げる。</p> <p>(1)空気調和設備</p> <p>各種設備のうち消費エネルギーが最も大きいため、省エネルギーが必須となる。主な対策として、熱源にヒートポンプ方式を採用することや、外気負荷を低減するための熱交換機の設置などがある。</p> <p>(a)ヒートポンプ方式</p> <p>電力の有効利用による省エネルギー効果のほか、化石燃料の燃焼によらないため、省資源やCO2発生量を削減する効果が優れている。</p> <p>(b)熱交換機</p>	
--	--	---	--

<p>石燃料を燃やして熱を得るシステムに比べて効率がよく、省エネルギーであり、CO<sub>2</sub>発生量も少なく、環境負荷低減に有効である。</p> <p>2)全熱交換機の採用</p> <p>空調時においては、換気のために外気を取入れ、室内空気の一定割合を新鮮空気(外気)と入れ換える必要がある。全熱交換機は、外気負荷を軽減するために、空調調和機の外気取入れにおいて、排気中の廃熱を回収し、その熱を給気部分で申請空気に伝えて利用するシステムである。</p>	<p>熱交換機は、例温水・蒸気・空気などの熱交換に用いられ、室内の排気から熱や水蒸気を吸収して取り入れ外気に移し替えることにより、外気負荷を低減し、省エネルギー効果を高めることができる。</p> <p>顕熱のみを回収する顕熱交換機と、水蒸気などの潜熱も回収できる全熱交換機とに分けられ、空調調和設備や換気設備に用いられる回転型と静止型の全熱交換機とがある。</p>
--	--

同上	同上	220 頁「階高 4m」 項目中上から 3 番 目の図解	同上	同上	同上	77 頁記載図解	原告図解「階高 4m」中 3 番 目の図が被告作成テキスト 77 頁記載の 2 図解においてそのま ま用いられている。
10							

同上	同上	222 頁図解「エスカレーター2 基設置例 (階高 4,000)」中「B-B 断面図」	同上	同上	82 頁「エスカレーター1 計画例」内図解	原告図解「エスカレーター2 基設置例 (階高 4,000)」中 3 番目の図が被告作成デキスト左記特定部分においてそのまま用いられている。
11						

12	1 級建築士問題解説集 施工 初版第 1 刷 (甲 4)	H23.1.10	158 頁肢 2	建築士講座 2013 年 目標 1 級建築士学 科新体系問題集施 工 (甲 9)	H25.2.6	151 頁肢 2	同問題は、平成 18 年度 1 級建 築士学科本試験の過去問題が基 になっているところ、原告出題 問題は本試験過去問題をその後 の日本建築学会建築工事標準仕 様書 (以下、「JASS」という。) 4 の改定に伴い、設問を変更し ている。左記の被告出題では、 かかる改定に伴い原告において 変更した問題が用いられてい る。
	2. セメントミルク工法による既製コンクリート杭工事に 使用するアースオーガーヘッドは、杭径より 100mm 程度 おおきいものを使用した。	2. セメントミルク工法による既製コンクリート杭工 事において、アースオーガーヘッドは、杭径より 100 mm 程度大きいものを使用した。	同上	同上	同上	同上	同上
13	同上	同上	212 頁肢 3	同上	同上	210 頁肢 3	同問題は、平成 19 年度 1 級建 築士学科本試験の過去問題が基 になっているところ、原告出題 問題は本試験過去問題をその後 の JASS5 の改定に伴い問題を
	3. 普通コンクリートの品質基準強度は、特記のない場合、 設計基準強度または耐久設計基準強度の大きい方の値とす る。	3. 普通コンクリートの品質基準強度は、特記のない 場合、設計基準強度または耐久設計基準強度のうち、 大きい方の値とする。	同上	同上	同上	同上	同上



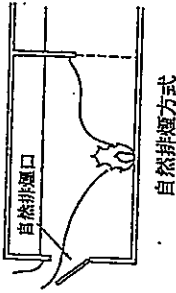
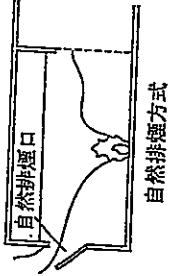
<p>差し替えている。左記の被告出題では、かかる改定に伴い原告において変更した問題そのものが用いられている。</p>				<p>同問題は、平成17年度1級建築士学科本試験の過去問題が基になっていているところ、原告出題問題は本試験過去問題をその後のJASSの改定に伴い問題を變更している。左記の被告出題では、かかる改定に伴い原告において変更した問題が用いられている。</p>
<p>同問題は、平成17年度1級建築士学科本試験の過去問題が基になっていているところ、原告出題問題は本試験過去問題をその後のJASSの改定に伴い問題を變更している。左記の被告出題では、かかる改定に伴い原告において変更した問題が用いられている。</p>				<p>同問題は、平成16年度1級建築士学科本試験の過去問題が基になっていているところ、原告出題</p>
<p>同問題は、平成17年度1級建築士学科本試験の過去問題が基になっていているところ、原告出題問題は本試験過去問題をその後のJASSの改定に伴い問題を變更している。左記の被告出題では、かかる改定に伴い原告において変更した問題が用いられている。</p>	<p>同上</p>	<p>同上</p>	<p>206 頁肢 1</p>	
<p>1. 普通コンクリートの品質基準強度は、特記のない場合、設計基準強度または耐久設計基準強度のうち、大きい方の値とする。</p>	<p>同上</p>	<p>同上</p>	<p>166 頁肢 1</p>	
<p>1. コンクリート壁にひび割れ誘発目地を設ける場合、目地部の鉄筋に対するかぶり厚さについては、目地底から所</p>	<p>同上</p>	<p>同上</p>	<p>181 頁肢 1</p>	
<p>1. コンクリート壁にひび割れ誘発目地を設ける場合、目地部の鉄筋に対するかぶり厚さについては、目地底から所</p>	<p>同上</p>	<p>同上</p>	<p>166 頁肢 1</p>	

	<p>定のかぶり厚さを確保する。</p>	<p>より所定のかぶり厚さを確保する。</p>	<p>問題は本試験過去問題をその後の JASS 改定に伴い問題を変更している。左記の被告出題では、かかる改定に伴い原告において変更した問題が用いられている。</p>
<p>16</p>	<p>同上</p> <p>198 頁肢 2</p> <p>2. 高強度コンクリートにおいて、コンクリートの圧縮強度が 5 N/m<sup>2</sup>以上に達したことを確認したので、梁側のせき板を取り外した。</p>	<p>同上</p> <p>196 頁肢 2</p> <p>2. 高強度コンクリートにおいて、コンクリートの圧縮強度が 5 N/m<sup>2</sup>以上に達したことを確認したので、梁側のせき板を取り外した。</p>	<p>同問題は、平成 20 年度 1 級建築士学科本試験の過去問題が基になっているところ、原告出題問題は本試験過去問題をその後の JASS 改定に伴い問題を変更している。左記の被告出題では、かかる改定に伴い原告において変更した問題が用いられている。</p>

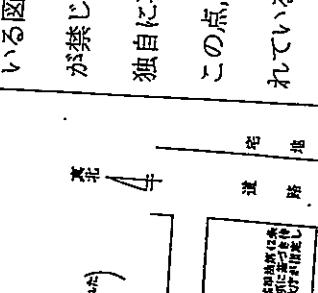

<p>左記の被告解説に用いられている図解は、被告作成図解の図につき左右を入れ替えてそのまま使用したものである。</p>	<p>316 頁肢 1 解説</p>	<p>同上</p>	<p>同上</p>	<p>同上</p>	
<p>同上</p>	<p>310 頁肢 1 解説</p>	<p>同上</p>	<p>同上</p>		

同上	同上	247 頁肢 1 解説	同上	同上	287 頁肢 1 解説	<p>左記の被告解説に用いられている表は原告オリジナルの表である（その証左として、継ぎ手の種類三段目は、通常「溶接混合」と記載するのが正しいが、原告は試験対応としてこれを敢えて「エレクションピース」と修正している）が、被告作成の解説にはかかる表がそのまま用いられている。</p>																								
<p>【ポイント】 仮ボルト</p> <table border="1" data-bbox="703 1339 831 1854"> <thead> <tr> <th>継手の種類</th> <th>仮ボルト</th> <th>配 置</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>高カボルト</td> <td>中ボルト</td> <td>1/3・2本以上</td> </tr> <tr> <td>共用・併用</td> <td>高カボルト</td> <td>1/2・2本以上</td> </tr> <tr> <td>エレクションピース</td> <td></td> <td>全 数</td> </tr> </tbody> </table>			継手の種類	仮ボルト	配 置	高カボルト	中ボルト	1/3・2本以上	共用・併用	高カボルト	1/2・2本以上	エレクションピース		全 数	<p>仮ボルトの種類・本数・配置</p> <table border="1" data-bbox="703 584 868 1218"> <thead> <tr> <th>継手の種類</th> <th>仮ボルトの種類</th> <th>配 置</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>高カボルト</td> <td>中ボルト</td> <td>1/3・2本以上</td> </tr> <tr> <td>共用混合・併用継手</td> <td>高カボルト</td> <td>1/2・2本以上</td> </tr> <tr> <td>エレクションピース</td> <td></td> <td>全 数</td> </tr> </tbody> </table>				継手の種類	仮ボルトの種類	配 置	高カボルト	中ボルト	1/3・2本以上	共用混合・併用継手	高カボルト	1/2・2本以上	エレクションピース		全 数
継手の種類	仮ボルト	配 置																												
高カボルト	中ボルト	1/3・2本以上																												
共用・併用	高カボルト	1/2・2本以上																												
エレクションピース		全 数																												
継手の種類	仮ボルトの種類	配 置																												
高カボルト	中ボルト	1/3・2本以上																												
共用混合・併用継手	高カボルト	1/2・2本以上																												
エレクションピース		全 数																												

<p>1 級建築士問題解説集 環境・設備初版第 1 刷 (甲 5)</p>	<p>H23.1.10</p>	<p>105 頁肢 1</p>	<p>建築士講座 2013 年 目標 1 級建築士学 科新体系問題集環 境・設備 (甲 10)</p>	<p>H24.12.17</p>	<p>82 頁肢 1</p>	<p>同問題は、平成 17 年度 1 級建 築士学科本試験の過去問題が基 になっているところ、原告出題 問題は本試験過去問題をその後 の JIS 改定に伴い問題を変更し ている。左記の被告出題では、 かかる改定に伴い原告において 変更した問題が用いられてい る。</p>
---	-----------------	-----------------	---	------------------	----------------	---

1級建築士受験テキスト ト学科Ⅱ環境・設備 (甲6)	H23.1.10	353頁中段 「c 自然排煙方式」 内図解	建築士講座2013年 目標1級建築士学 科新体系テキスト 環境・設備(甲11)	H24.12.17	274頁「㊸自然排 煙方式」内図解	同図解は原告オリジナルのも のであるところ、被告テキスト 上に全く同一の図解が用いられ ている。
		 <p>自然排煙口 自然排煙方式</p>			 <p>自然排煙口 自然排煙方式</p>	

<p>1 級建築士問題解説集 法規 (甲 7)</p>	<p>H23.1.20</p>	<p>216 頁図解</p>	<p>建築士講座 2013 年 目標 1 級建築士講 座新体系問題集 規 (甲 1 2)</p>	<p>H25.3.11</p>	<p>288 頁図解</p>	<p>左記各問題集記載の問題は平成 16 年 1 級建築士学科本試験の過去問題がベースになっているところ、過去問題に使用されている図解については直接の転載は禁じられていることから各社は独自に再現を行う必要がある。この点、被告テキストに用いられている図解は原告の様式と全く同一である。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="width: 45%;"> </div> <div style="width: 45%;"> </div> </div>
---------------------------------	-----------------	----------------	--	-----------------	----------------	--

同上	同上	214頁図解	同上	290頁図解	左記各問題集記載の問題は平成17年1級建築士学科本試験の過去問題がベースになっているところ、過去問題に使用されている図解については直接の転載が禁じられていることから各社独自に再現を行う必要がある。この点、被告テキストに用いられている図解は原告の様式と全く同一である。
同上	同上	<p>1. 4,536m<sup>2</sup></p> <p>2. 5,208m<sup>2</sup></p> <p>3. 5,292m<sup>2</sup></p> <p>4. 5,394m<sup>2</sup></p> <p>5. 5,600m<sup>2</sup></p> 	同上	<p>1. 4,636m<sup>2</sup></p> <p>2. 5,208m<sup>2</sup></p> <p>3. 5,292m<sup>2</sup></p> <p>4. 5,394m<sup>2</sup></p> <p>5. 5,600m<sup>2</sup></p> 	



同上	236 頁図解	同上	同上
<p>左記各問題集記載の問題は平成18年1級建築士学科本試験の過去問題がベースになっているところ、過去問題に使用されている図解については直接の転載が禁じられていることから各社独自に再現を行う必要がある。この点、被告スキストに用いられている図解は原告の様式と全く同一である。</p>	<p>312 頁図解</p>	<p>同上</p>	<p>同上</p>

